

自由であることへの切望

ムムクシュトウワ

ベン・ウィリアムスによる解説

この世界に滞在している中で、私たちは時々、今つかむことができる以上の何か——人間であることのより重要な何か、人生のより大きな可能性——があるという感覚に気づくことがあります。この感覚は、自身が設定した一般的な目的のすべてを達成したとしても、本当の充実感には至らないだろうという直感もまた、伴っているかもしれません。

それでは、私たちが本当に求めていることは何でしょうか。私たちは、色あせない幸福を求めています。揺るぎない内側の自由を希求しています。この内側からの求めはかすかなものかもしれませんが、とても重要です。この、生きることにはもっと何かがあるという感覚は、広大で無限な私たち自身の本質に目覚めたいという純粋な衝動に呼応するものです。

シャイヴィズムの哲学を解説するシッダたちは、この切望は大いなる意識自体に内在するものであると言います。彼らは、すべてに浸透する大いなる意識が創造することを決める瞬間、この宇宙のドラマを演じるために、その自由と完全性を自ら放棄する、と教えます。このようにして、大いなる意識はあたかも役者のように、個人としての魂の役割を自ら引き受けます。魂は、その誕生と再生の循環のすべてを通して、心の内深くに密かに埋め込まれた、広大で至福に満ちた大いなる意識としての本質の記憶を携えています。この私たちの無限の本質の記憶が目覚める時、あらゆる生命に横たわり息吹を与える原初の自由と広大な喜び、あらゆるものが融合するあの驚くべき大いなる気づきを取り戻したいという気持ちへと、私たちは駆り立てられるようになるのです。

転機となるのは、この本来内在する切望を意識するようになる時です。その切望はそれ自体、私たちが切望するものの一瞬のきらめきでもあります。この内なる希求を表すサンスクリット語をムムクシュトウワと言い、解放への燃えるような願い、真理を知りたいという切望を意味します。

シュリー・シャンカラチャーリヤ著とみなされているヴェーダーンタ哲学に関する最も簡潔で見識ある作品の一つ、『Crest-Jewel of Discrimination 識別の宝玉』にはこのようにあります。

これら三つの事柄は、大変に希少であり、神の恩恵に由来する。それらは、人間としての誕生、解放への切望、そして偉大な存在の保護である。¹

インドの哲学的伝統では、人間としての誕生は希少で計り知れない贈り物とされています。なぜなら、人間には大いなる意識の無限の自由に目覚める能力があるからです。そして、この自由への切望に気づくことは、人間の生における重要な転機を意味します。さらに、この二つの途方もない祝福に加えて、神の恩恵の最高の行為があります。その行為によって、私たちは真のグルに出会い、ついに保護を求めるのです。というのは、そのような完全に悟りを得た師であるサッドグルは、シャクティパート・ディークシャー、すなわち神聖な伝授という驚くべき贈り物を授ける力を与えられているからです。

シャクティパート・ディークシャーは直接的に神聖なエネルギーであるクンダリニー・シャクティを目覚めさせ、それは、師の恩恵と保護の下の私たちの精神的鍛錬を通して次第に顕現していきます。この私たちの内側の力の顕現、あるいは拡張は、解放への切望を刺激し、私たちの精神の道における進歩を加速させます。このようにして、精神的な探究者は、次第に円熟していき、大いなる自己についての完全な知識に到達する用意ができるのです。

¹ 同書、第1章、第1節、第10段。

偉大なるシッダたちの教えは、この切望を認識する重要性を絶えず称賛しています。グルマーイはこう言います。

ムムクシュトウワは、解放を達成しようとする決意です。この燃えるような願いこそが、人に真理を探究させます。そのような人はムムクシュと呼ばれ、内側のより偉大な力を知るために、神聖なる知識を得るために、進んで自らを犠牲にします。

真のムムクシュは、自分自身の限界に束縛し続けるすべての障壁を打ち破りたいと思います。決して忘れられない自由への熱望と共に、真理と一つになることを決意するのです。ですから、ほんの少しのエゴでさえ、彼には苦痛です。辛抱強く、ムムクシュは神の意志に身を委ねようと努めます。

ムムクシュでありなさい。一意専心、偉大なる真理と一つになることを切望しなさい。²

ムムクシュであることの気づきは、私たちのサーダナーが自然に進展しているしるしであり、私たちの精神的鍛練が達成に近づいている兆しです。この切望はさまざまな度合いや異なる形で体験できますが、しばしば私たちを制限する障壁を打ち破ろう、そして、賢明に、思いやりを持ち、恐れず、偉大なる自由の場所から生きようという内なる決意として現れます。解放への純粋な献身の心は、真に重要な目標を確立します。それは、私たちの広く異なる動機を関連付けて筋道を通し、私たちの中の、この目標とは一致しない場所に光を当てます。

この切望はどのように培うことができるのでしょうか。自由になるという決意は、自由へと導く精神修行に打ち込みたいという願いとして現れることがあります。私たちは瞑想への強い興味を得ます。神聖な名前をチャンティングする甘美さを好むようになり、そして喜んでマントラを

復唱することに取り組みます。私たちは真理を知る者たちの輝く言葉を学び、偉大な存在たちのダルシヤンを持つことに努めます。私たちは人生の体験を深く熟考し、私たちの真の価値を再発見します。人生から後ずさりするよりはむしろ、私たちは、起こるすべての事柄の中に大いなる意識を認めて一つ一つの状況から学ぶ私たちの能力の中に、自由は見つかることを理解します。そうすることが私たちを勇気づけてくれるのです。私たちは、人生の困難を直視し乗り越えることで、自由の体験を拡大できると分かります。さまざまな方法で、私たちはサツァング、すなわち真実であるものとの内なる交わりへ、私たちをより近づけるものに、熱心に取り組むのです。

私たち自身の神聖さの認識に確立するようになる旅は、努力、勇気、そしてグルマールイが言うように、犠牲を必要とします。しかしながら、この自由への切望の力は、楽しく、無限の可能性という心が浮き立つ感覚を引き起こすものです。ムムクシュトウワが私たちの心に広がるにつれ、私たちは真の勇気を培います。自由への勇敢な衝動は、その中で、そしてそれ自体が、強さの源として作用するのです。

¹ *Vivekacūḍāmaṇi* 3; English translation © 2018 SYDA Foundation.

² Swami Muktananda and Swami Chidvilasananda, *Resonate with Stillness: Daily Contemplations* (South Fallsburg, NY: SYDA Foundation, 1995), May 4.

